

令和5年度第3回湘南大庭の未来を考える会議議事録

日時 2023年(令和5年)11月17日(金)午後2時15分から4時15分
場所 湘南大庭市民センター 第1談話室
参加者 佐野会長他19人(詳細は出席者一覧のとおり)

開会前

会議の開会前に、市河川水路課から、早ければ来年度から実施を予定している小糸川の護岸工事についての内容説明があった。

1 開会

會澤課長補佐による司会で開会し、佐野会長が議長として会議を進行した。

2 指針(仮)たたき台第4章の内容について

指針(仮)第4章について、湘南大庭地域活性化協議会から出た意見をベースとし、市の関係各課等と調整をしたうえで事務局が作成した内容の案を、資料1-1及び1-2を用いて大矢主任から説明した。

(意見等)

道上委員：この後の議題で説明させていただくが、今回作成いただいた内容は、9月の活性化協議会で検討した内容までを反映してもらっている。その後の検討内容の反映も、次回以降行ってほしい。

事務局：今回の第3回会議のタイミング上、9月までの検討内容に基づく作成となった。また次回、改めて最新の内容で反映させ、調整させてもらう。

3 湘南大庭地域活性化協議会での検討経過について

指針(仮)第2章から第4章について、湘南大庭地域活性化協議会で内容の追加や修正について検討した経過(資料2)を道上委員から、また10月に開催された湘南大庭ふるさとまつりにおいて実施したアンケート結果(資料「湘南大庭地域活性化協議会 ふるさとまつり展示」)を桃井委員から説明した。

(意見等)

佐野会長：策定しようとしている指針は、あくまでガイドラインとなるものであり、活性化協議会の意見を全て盛り込むことはできない。そのため、活性化協議会は活性化協議会でまとめた資料等を作るというのも1つの方法である。また、現在住んでいる人たちのことに加え、関係人口も含めて人を流入させることについても盛り込めるとなると思う。大学が付近にあるという魅力も、実際にアクションしないと連携することはできないので活かすことができない。ふるさとまつりのアンケート結果では、現在できることと、計画化しないとできないこととを分けて考えられると、具体的にできることが分かると思われる。回答者は全員まつりに参加し

た人で、アクティブな人であるという特性があり、貴重なデータである。

広岡委員：活性化協議会では熱心に、細かく検討されているということに感服した。

事務局で作成した第4章の内容について、活性化協議会は具体的なアイデアを書いているので、どうやって検討するのかが分かるように、もう少し書いたほうがよいのではないか。

實方副会長：第4章の内容のバックデータとして、活性化協議会が作成した資料2を残してもらったほうが、今より後の世代の人にとって参考になると思われる。事務局が作成した第4章の内容について、感じたことが3点ある。1つ目に、主語が誰なのかが見えづらいということ。策定する指針は、これから何をどう取り組んでいくのかということ、地域全体に共有するものである。そのため、主体や、誰と誰が協力して行うのかが分かったほうが、その人たちに声をかけやすくなると思う。2つ目に、項目によって書き方に差があるのが気になった。例えば、2. 生彩の(2)－①などは、緑の更新をボランティアのみで行うことは難しいので、関わる主体を再検討してほしい。3つ目に、第4章全体として、地域の大切な場所がキーワードとして具体的に書かれているので、その該当する場所を地図や概念図にして、一目見て拠点となるような場所が分かるように掲載したほうがよいと思う。

水上委員：第4章の内容として、今の住民に関わるアイデアはかなり出ていると思うが、転入を増やす、人を呼び込むという視点があまり入っていないように感じられる。いいまちにすれば自然と人が入ってくるという考え方もあるが、事業者等が、もっと人を配置したくなるようなまちでないと、だんだんとまち全体が疲弊してしまうと思われる。そのため、佐野会長も言われていたが、外から人を呼ぶための施策をもっと盛り込んだほうがよいと思う。實方副会長が言われた主語の部分については私も思った。主語を書けるものは書いてしまったほうがよいかもしれないが、一方で、事務局でも市民の想いを入れ込もうと苦心されたことは推察できる。市民にとっても行政にとっても動かしやすい指針に仕上げる必要がある。また、6～7年前に、若葉台団地の再生プランを作ったが、コロナ前に作成したものなので、現在アップデートすることが必要な状況になっている。この指針についても、必要な時にみんなでアップデートすることを明記したほうがよいと思う。活性化協議会の、丁寧で熱心な作業には敬意を表したい。

道上委員：転入を増やすという視点については、子育てやデジタルに関する内容を盛り込み、若い世代を呼び込みたいと考えていたが、今はどの自治体でも若い世代を呼び込みたい状況である。その中で、湘南ライフタウンは辻堂にも近く、恵まれた環境であるので、もっと若い世代にとって魅力的なまちに感じられるよう、特に子育てに関しては内容を充実させるように改めて検討したい。

木田委員：人口減少や高齢化が進む中、各自治体が様々な施策で若い世代を中心に移住者を呼び込もうとしている。県内において、藤沢市は開成町などとともに転入者が多い地域である。そのため、実際に転入してきた若い世代に話を聞き、情報発信していけるとよいのではないか。転入を考えている人にとっては、実際に転入した人の声を聞くのが一番参考になると思われる。

中村委員：ふるさとまつりのアンケート結果については、引地川親水公園付近の休耕地あたりに作ったらどうかというアイデアをもとに選択肢に入れた道の駅がトップだった。ただ、豊かな水辺や農地を残していくという考え方と相反するものであり、様々な関係者に影響する。大庭城址公園では、1月にシンポジウムを開催するので、大庭城址公園の未来について提起する機会とし、盛り上げていきたい。活性化協議会としては、郷土づくり推進会議とのあり方も検討しつつ、若い人たちに引き継ぎながら活動を継続させたいと思っている。住み替えや建築協定の問題についても指針に盛り込みたい。また、交流できるスペースが現在地域に少ないため、市やみんなの力を借りることが必要であると感じている。

佐野会長：外からの視点については、他の地域がある中で湘南ライフタウンを選んでもらうことを考えなければならないので、やはり大事な視点だと思う。新しく来てもらう人に迎合するのではないが、ここは良い場所だといくら伝えても、魅力を感じてもらえるかは分からない。この指針は実施計画の前段階のものであり、あくまでガイドラインのため、内容の中には実施されないもの、消えていくものもあると思われる。活性化協議会で検討された内容は残り、ベースとなるので、活性化協議会は地域において今後重要視されると思う。ただ、活性化協議会の意見を全て盛り込むことはできず、住民、事業者、行政の三者で指針の内容を調整しなければならない。そのため、活性化協議会の成果は成果としてまとめて残すほうがよいと思われる。また、都心から来る人にも魅力的に見えるよう、地域の場所を地図にするのは大切である。

事務局：昨年度実施したアンケートや、今年度実施したタウンミーティングでも若い世代の回答・参加が少なかったため、今回活性化協議会で若い世代に積極的に声掛けして実施したアンケート結果は貴重なもの。策定する指針については、20年先を見据えたまちづくりのガイドラインとなる。活性化協議会で意見として出してもらった具体的な内容に繋がり、検討したいものを実際に検討することができるように、水上委員が言われたような、使いやすい、動きやすいガイドラインをめざしている。この指針を読み、どんな取組を行おうかとなった際に、記録として残す活性化協議会で検討された内容を見てもらい、参考にして取り組めるようなつくりをしたいと考えている。また、第4章の主体が誰なのかという部分については、市としても悩んだところだが、1つの取組に色々な人が色々

な面で取り組むことができる内容であるため、あえてあまり縛りを加えない内容とし、地域の方が思い立った時に、色々な人と連携が取れるようなつくりとした。中村委員が言われた住み替えや建築協定、道の駅等の部分については、関連するワードが第4章の中に既に盛り込まれているため、活性化協議会の検討内容と並べれば、取組の内容が見えてくるように作成している。地域の方が取組を行おうとするときに、指針と方向性が合い検討が実施できるよう、今後の活性化協議会での検討内容も盛り込みながら、最終的に作りこみを実施したい。

道上委員：なかなか難しいかもしれないが、“湘南の山手”という言葉を活用協議会が作成した意見には盛り込んでおり、そのような実現可能なレベルのキーワードは第4章の内容に入れてほしい。策定された指針を読んだときに、「これが湘南ライフタウンの指針だ」と感じられるものであってほしい。

事務局：湘南ライフタウンらしさを十分に入れ込んだものを作りこみたいという思いはこちらも同じである。“湘南の山手”については、個人的には素晴らしいと思うが、そのキーワードを、他の地域住民がどう考えているかがまだ把握できていないため、時期尚早であると判断して記載を控えた。今後、まちのキーワードとして“湘南の山手”はどうかという議論を、この指針に基づいて進められるよう、策定を行いたい。

佐野会長：現在、湘南大庭の未来を考える会議は市のHPに掲載されて情報を得られ、住民も関心を持っているが、活性化協議会の情報がそのページ内にないため、活性化協議会の検討内容で、重要なものを付属資料のように一緒に掲載したほうがよいと思うがどうか。

事務局：HPの掲載については、活性化協議会の情報もリンクして載せられるように検討する。

杉渕アドバイザー：“湘南の山手”については、藤沢本町駅の近くに“湘南山の手通り”という商店街が既にあるため、そこと差別化をする表現とすることが必要となる。また、湘南ライフタウンの地理的状況・アクセスを地図で分かるようにしつつ、東京に出やすい等の交通利便性をアピールすることができるとよい。

4 指針（仮）たたき台第2章・第3章の修正について

指針（仮）第2章から第3章について、湘南大庭地域活性化協議会で検討された内容や、また市関係各課等からの要望等に基づく追加・修正点について、資料3-1及び3-2に沿って大矢主任から説明した。

（意見等なし）

5 その他

事務局から、次回会議日程について、2024年（令和6年）1月25日（木）

午後の開催を予定しており、詳細な日時は改めて連絡することとなった。

6 閉会

7 まとめ

○指針（仮）の内容について

【決定事項】

- ・活性化協議会で10月以降に検討を実施した内容についても、改めて指針の中に反映させる。
- ・策定しようとしている指針は、20年先を見据えた地域のガイドラインであり、地域に関わる主体にとって使いやすい、動かしやすいものをめざす。
- ・活性化協議会でこれまで検討してきた内容について、指針本編の中ではなくとも、記録として確認できるようにする。

【確認・検討事項】

- ・第4章の生彩の(2)－①は、緑の更新をボランティアのみで行うことは難しいので修正を検討する。
- ・第4章に書かれている地域にとって大切な場所や、地理的状况を地図にする。
- ・転入を増やす、人を呼び込むための取組方針を加える。
- ・指針について、必要な時にみんなで内容をアップデートするということを明記する。
- ・湘南大庭の未来を考える会議のHPで、活性化協議会での検討内容等の情報も見られるように工夫する。

以上

R5第3回湘南大庭の未来を考える会議 出席者一覧

	分類	所属・役職等	氏名
1	地域住民	湘南大庭地域活性化協議会 委員	神木 紀
2		〃	道上 久恵
3		〃	桃井 達哉
4		〃	中村 亮一
5	民間事業者	有限会社マルモ 取締役	森谷 健一
6	関係機関	神奈川県住宅供給公社 賃貸事業部 運営企画課 課長	水上 弘二
7		〃 副主幹	茶屋道 京佑
8	学識経験者	公益社団法人 神奈川県地方自治研究センター 理事長	佐野 充
9		株式会社 都市環境研究所 計画グループ 主任研究員	實方 理佐
10	神奈川県職員	神奈川県県土整備局 建築住宅部 住宅計画課 住宅企画グループ グループリーダー	広岡 まり
11		神奈川県県土整備局 建築住宅部 公共住宅課 住宅管理グループ グループリーダー	木田 敦嗣
12	藤沢市職員	藤沢市 住宅政策課	加藤 淳一
13		藤沢市 湘南大庭市民センター	矢内 健

事務局

1	藤沢市職員	藤沢市 住宅政策課	會澤 貴浩
2			大矢 秀宣
3			近藤 みゆき
4		藤沢市 都市計画課	堀田 典久
5			與安 裕之
6		藤沢市 湘南大庭市民センター	菅谷 和彦
7		アドバイザー	